

今号の TOPICS～代表ご挨拶

コロナ下での活動を考える

代表 大沢 金呉

昨年4月に代表に就任して1年経たずして、新型コロナウイルスの感染拡大という大きな環境変化が起こり、2月末から6月末までの4カ月余りの間、活動休止を余儀なくされました。新型コロナウイルスの感染拡大の初期では、自分の周りから「一人の感染者も出さない」というゼロリスクを求め、求められ、過剰ともいえる感染予防対策をとって家に閉じこもり、多くの仲間がすっかり疲弊し切ってしまったのではないのでしょうか。しかしながら現実社会ではゼロリスクはあり得ず、リスクをどこまで許容するかが問われます。

われわれシニアの活動を不要不急の活動だと思い込み(生活の糧ではないがシニアの生きがい・健康維持のためには不可欠)、世間からもアクティブシニアが集団で動き回ることに対して白い目で見られがちですが、これからはリスクをある程度までは許容しながら、万全の感染予防対策をとり、工夫して活動を継続していくことが現実的ではないのでしょうか。

これが正解だという対策はありませんが、班別・委員会別での活動、5～6人の小グループ単位による活動、ラッシュ時を避ける集合時間、班別の時間差集合、三密を避ける広い会場の確保などが今まで具体的に行ってきた対策です。窮屈な活動が今後も相当長期間続くことを覚悟しながらも、みんなと一緒に参加して楽しい活動を企画していきたいと思います。

さて、昨年度代表就任時に科にとって大切なことをいくつかあげました。

- ①参加して楽しい活動を企画すること(運営にも参加)
- ②一人一人の長所を認め合い、お互いを Respect する組織、学びと研鑽を欠かさない組織
- ③スーパー居心地の良い組織
- ④世の中に「自然と文化科」を使ってもらった結果、社会貢献となる活動を発信すること

これらについては引き続きみなさまと一緒に創意工夫しながら、全員が切磋琢磨して、参加して楽しく、精神的にも満たされる研究科にしていきたいと思います。

一方で自然と文化科が将来にわたって継続・発展していくための検討課題もいくつかあげました。人材の確保、組織体制などです。これらについても引き続き検討を進めます。

最後に、私たちは、人と人とのつながりの中で自分を確認しながら生きています。ウィズコロナの時代、孤立せず、みんなが工夫して人間関係を守る努力が必要だと考えます。

*****目次*****

P1	今号の TOPICS	大沢 金呉
P2	仲間たちの近況報告 (1)	
	1 班	藤本 純子
	2 班	田中 朱実
P3	仲間たちの近況報告 (2)	
	3 班	小畑 孝二
	4 班	赤木 俊雄
P4	専任幹事ご挨拶	中澤 重文
	リレー随筆	上山 富美代
P5	私の玉手箱	溝部 浩二
P6	自由コーナー	藤原 雄平
P7	樹形ウォッチング	遊上 真一
P8	絵画コーナー	木邨 圭子
P9	写真コーナー	渡辺 文子
P10	俳句・川柳	池田 清
	コーナー	山上 恵子
P11	新人紹介コーナー	

◇自然と文化だより◇

コロナ禍でオリンピックは延期となり、経済は止まり、拳句の果て回復策を期待していた国策は、首相交代で、どうなるのであろうか。

当科はようやく7月から活動を開始したが、感染対策で制限された行動を強いられている。以前のように戻るのはまだまだのようだ。

しかし暗い話題が多いが、緊急事態宣言が発出され、自粛していた頃を考えると、好転してきている。

with コロナの意識を持って、活動を続け、元気なシニアを目指しましょう。
Y.T



コロナ禍の下で

1 班 藤本 純子

3月3日の外出以来巣籠もり生活に入った。当初はコロナが何かわからず、毎日毎日新聞とテレビに釘づけの日々であった。それにしても新聞やテレビをこれ程熱心に見た事が有ったかと思う程暇なく見ていると1日の何と早い事か。が、そんな生活も50日近くも続くと飽き飽きしてきた。そんな時に癒されたのが自然と文化科から配信されるメールであった。皆様の活動記録を見ていると、共に同じ景色を見ているかの様な気分だった。

知人に「散歩はしても良いのよ」と言われ早朝に取り敢えず5分位の所にある公園に行った。すると家とは大違い、大きな木は有る、花は満開、小鳥は1〜2m先の所をチョロチョロ。鬱々した気分もパーッと晴れて何と気分の良い事！まるで徳沢に居る様な気分だった。周りを眺めながらあの向こうは・・・と日毎に足を延ばす内に40分位の健康公園迄行く事になった。1ヶ月も毎日歩いていると足の裏は痛くなるし日焼けはするし、明日は休み！と思っても時間になると又歩いていた。そうしている内に木や花の名前も徐々に分かってくるし、行く時には蕾だった花が綻んだりしていると感動で益々止められなくなってきた。その様に楽しみながら歩いたのでアドレナリンの効果か(朝日新聞紙上)7月の終わりの日に10何年来痛かった腰痛が全く無い！ラジオ体操も腰を伸ばして出来る！でも気が緩むと元に戻るのである。継続が大事なのだなあと知らされた。

自然が豊かな所で生まれ育っても関心が無ければ、シニア自然大学校で学ぶ様な事を意識しないで過ごしてきた。時間も十分有り継続の力を感じた今、関心の無かった周りを味わってみようと思っている。憧れの自然と文化科に入れて戴いても余り自信が持てないでいた。が、最近少し気持ちの変化を感じている。

コロナに関わって戴く様々の方の献身的な働きの上で自分に合った生活の仕方・可能性を発見した人もいる。これからは楽しみながら継続する事をモットーにしたい。思い出したのは

『稽古とは一より習い十を知り

十よりかえるもとのその一』

何事も何度でも挑戦したいと思っている。

楽しく難しい自然観察

2 班 田中 朱実

2年前シニア大学校へ入学するまで、ほとんど自然に興味を持つこともなく過ごしてきました。初めは場違いな所に来てしまったと思う事もしばしば。それが今では草木を観たり名前を調べたりするのが楽しくて仕方がありません。

きっかけになったのは緑組の仲間の何気ない一言。「これがメヒシバでこれがオヒシバよ」その違いを丁寧に教えてもらい、「へえ〜！面白い！」とその帰りに本屋に寄り『知識ゼロからの野草図鑑』を買って帰りました。

それからは徐々に、観察会に参加させてもらったりするようになりました。

今年7月2日には奈良の廣瀬大社に行き、下記写真の植物に出会いました。



何だろう？皆、名前が分からず、“困った時にはグーグル先生！”と、グーグルレンズで調べてみました。何人かの携帯に「シャクジョウソウ」と出ました。どなたかの「シャクジョウソウならもっと黄色いはずだけど」の声も空しく「シャクジョウソウ」という事でその日は帰ってきました。

が、後日ヤフーニュースで「タシロランの群生見つかる 石清水八幡宮境内」の写真入り記事を見て、アッ、これはあの時のシャクジョウソウ・・・と自分の撮った写真と見比べると、正にそれはタシロランでした。

シャクジョウソウはツツジ科、タシロランはラン科。よく見れば花も全然違っていたはずですが、せっかく実物を目の前にしていたのだから、ルーペを出してもっとしっかり観ておくべきでした。グーグルレンズはとっても便利だけれど、出てきた答えを取っ掛かりにして、もう一度調べなおしてみるこまめさが必要ですね・・・反省。

植物初心者の私ですが、これからどうぞよろしく願いいたします。

私の名前、バッタさん！

3 班 小畑 孝二

＜参加者と出会う場面＞

(小 畑) みなさ～ん！バッタ知っていますか？
いろいろな生きものに食べられて、毎日大変なんです。応援してください。
では、私の掛け声の後、みなさんで「バッタ」と大きな声で言ってください。3 回します。よろしくお願いします。

(小 畑) お～（だんだん大きくする）

(参加者) バッタ

※これをリズムよく、3 回繰り返す。

(小 畑) 私の名前は、「おばた」と言います。
これから「バッタさん」と呼んでね！
※いつも使っている名札を見せる。



次は、もっと注目してもらえるようにします。例えば、正面の姿をよく観察してもらいます。その後、後ろを向いて名札やペンの位置を変えます。前を向き、何が変わったかを当ててもらいます。参加者にバッタさんに対する興味を持たせます。

そして、次の段階へ進みます。全員が分かるような簡単な課題を出します。だんだん本日の課題にせまっていくようにします。

このように、初めての出会いでする名前覚えゲームの一例ですが、実践を重ねると参加者のみなさんがよく覚えているのに驚かされています。相互に名前を呼ぶことは、一人一人を認め合い相互の関係を良好に保つのに大いに役立つと思います。



新入科員です。自然が大好きです。
これからの活動が、とても楽しみです。よろしくお願いします！

パイナップルの実ができる

4 班 赤木 俊雄

8 月に農園で育てていた 8 個のパイナップルの花芽が出来、実ができ始めた。それを見た瞬間にそれまでの 4 年間の苦労が吹き飛んだ。

1、気象条件 原産地は中・南米の乾燥地。生育適温 20℃以上、5℃以下では枯れる。

2、土壌要因 酸性土壌が適地。アルカリ性では枯れる。

3、生物要因 特にない

生育に適した条件 9月に挿し木をして収穫まで2年間かかるので一番苦労したのは大阪の冬。0℃以下になる。

4、酸性土壌の赤玉土と普通の市販の「花の土」と比較実験した結果、「花の土」に挿し木して、生育させるとよいことが分かった。

（失敗した事）

・パイナップルは根の張り方が弱い。適当に土を浅く入れて押さえつけないのは枯れる。深めに植えてしっかり押さえ茎と土の圧着をさす。

・毎日、丁寧に水やりをすると『芯枯れ』で茎の真ん中が腐る。しかし、周りの葉が生きているのでそのまま栽培をすることができる。しかし、1 年遅れる。

（おすすめ栽培）

・大きい植木鉢に定植する。冬は部屋に移動して春に戸外に出すと 2 年間で結実する。

・土は「花の土」、大きな植木鉢に深めに植える。

・できれば冬には加温された部屋に移動するとよい。南向きの露地で風が当たらないようにビニールで覆いをすると無加温でも可能。ただし 3 年かかる。

・肥料は化成肥料を 1 年に 3 回（4、7、9月）分けて与える。

・水は少なめで良い。

（まとめ）地球の温暖化を考えると今までの栽培品目に無いものに挑戦するのもよいと考えている。皆さん、熱帯植物の栽培をやってみませんか。



コロナ時代の企画委員会行事

3班 中澤 重文

自然と文化科の活動がやっと 7 月から再開されましたが、いざ再開となると大きな壁にぶち当たりました。年初に作成した行事計画に沿って企画委員会行事を進めようとしたがうまくいきません。コロナの感染拡大前に作成した行事計画をコロナ時代に実施するには色々な工夫がいるようです。

企画委員会の再開後最初の行事は、7月31日に予定していた「兵庫県立美術館&安藤ギャラリー」でしたが、美術館のホームページを見に行くと「当分の間、団体のご利用はご遠慮願います」と書かれているではありませんか。急遽ピンチヒッターを探す必要が出てきました。ピンチヒッターとしては、5月22日に予定していた中止になった「ならまち散策と興福寺国宝館見学」を採用することにしましたが、更に問題が持ち上がりました。

5月22日のガイドを予約していた「なら・観光ボランティアガイドの会（朱雀）」のホームページを見に行くと、「6月中は活動を停止しており連絡は取れません」と書かれています。事前の準備期間を考慮すると、6月末まで連絡が取れない状況では7月31日のガイドをお願いするのは無理と判断しました。

万事休すというところですが、諦めるのはまだ早い。自前のメンバーでガイドする手段が残されています。自然と文化科には「ならなぎ」のメンバーが多数在籍しており、ならまちに詳しいメンバーが丁度4人いましたので、この4人でガイドすることができないか検討することにしました。夏の暑い時期に適応したならまち早回りコースを設定し、ガイドの皆さんの了解を得ることができて一安心しましたが、解決できない問題が一つだけ残りました。

「ならなぎ」に正式にガイドを依頼するとガイド料が高いという問題です。値下げ交渉には相当時間がかかりそうです。交渉に時間を取られると行事の準備が前に進まないの、4人のメンバーが個人的に案内するというので、ガイド料は無料で実施することにしましたが、ガイド料の無料化は「ならなぎ」のメンバーとしては難しい判断となりました。

以上、ならまち散策について述べてきましたが、コロナ時代では、見学施設や現地ガイドのコロナ対策上の都合などで、色々の問題点が出てくる恐れがあります。企画委員の一員として、このことに留意して行事に取り組んで行きたい思います。

ホームグラウンドと言ってもいいかしら

2班 上山 富美代

山の高みに魅せられて、これまでに国内外の多くの頂に立たせてもらった。少しでも高い頂をと目指した時期もあったが、最近はそうもいかず自己最高峰は6,746m（メラピーク）止まりである。体力的にもこれ以上の高さは望めないと諦め気分でしたが、素晴らしい最高峰を経験していることに最近気が付いた。灯台下暗しだったと言うべきか、それは、奈良と大阪の県境に位置する金剛山（1,125m）である。

三十路前に同僚に誘われたのが最初で、何だかんだと730回登っている。毎日登っている人も多い中で微々たる回数であるが、短時間で登れる金剛山は、忙殺された現役時代には癒しの場となり、私にとってその存在は大きかった。四季変化するブナ林に抱かれ、足元にはかわいい名も知らぬ草花に癒された。

秋の紅葉、冬は樹氷の輝きに魅了される。登山道が何十本もあり、その日の気分で選べるのも魅力的であった。

だが、最近は登り方が変わり、ゆっくり登山になってきた。その理由は、

「観察」することを知ったことにある。シニア自然大学で学んだものだ。これまではピークを目指す山行であったが、今は観察することの魅力に嵌まっている。「君（花）の名は？」「この落ち葉は誰（木）のもの？」「見つけた！」等とブツブツ言いながら立ち止まる。そして、この時間を満喫



アケボノソウの蜜を吸う蜂

している。今まで知らなかった新たな楽しみが増えたのだ。何百種もあるという草木や、野鳥等の生物に恵まれている金剛山、何度も登ったが気づかないことはばかりであった。今は、毎回の新たな発見にわくわくし、少しずつだが名を知り声かけで

きるのが嬉しい。

一日として同じ様は無い金剛山を遊び場とさせてもらっているけれど、私のホームグラウンドと言わせてもらってもいいかしら？ 知り尽くしてはいないけど、そう言わせてもらえれば…。

旅行仲間

4 班 溝部 浩二

毎年 1 回、3 家族・6 人の同じメンバーで海外旅行へ行っている。かつて勤めていた会社の OB 会の席上、同期で入社当時たまたま同じ勤務地で働いていた私を含む 3 人の仲間が意気投合して、「これからの老後を元気に過ごすには、毎年何か決まったことをすることだ。夫婦 3 家族で海外旅行へ行くことにしよう！」と決めた。

今から 10 年も前のことで、私がシニア自然大学校へ入った時期と同じ頃だ。以来、毎年欠かさずに全員そろって海外旅行へ行っている。

一般のツアーに参加する手軽な旅行だが、最初に 2 つの取り決めをした。まず行き先については、キリスト教やイスラム教の歴史や文化に関心のある人が多かったのでヨーロッパ方面に限定した。絵画の好きな人もいたので、できるだけ美術館を訪れるコースを選ぶことにした。この 10 年間で、イギリスを皮切りにスペインやトルコなど、北アフリカのモロッコを含め、訪れた国は 13 ヶ国である。

次に、日本出発については、関西国際空港あるいは中部国際空港（セントレア）を利用することにした。私は関西だが、あとの 2 人は名古屋方面に住んでいるので、公平を期して 1 回関空を使えば、2 回セントレアを使うようにローテーションを組んだ。セントレアへは名古屋を経由して行くので、名古屋城本丸御殿や熱田神宮、常滑焼、ミツカンミュージアムなど、おかげで名古屋観光も楽しむことができた。

一般ツアー参加者の中で、6 人のグループはいつも最大人数である。またこの頃は最も年齢が嵩んだグループにもなってきた。ツアーに参加するたびに、他の人から「皆さん、どういうご関係ですか？」と必ず聞かれる。事情を説明すると、「お元気で、皆さん仲が良くてよろしいですね。」と、うらやましがられる。

旅行中は 6 人でまとまって行動することが多い。忘れ物には誰かが気づいてくれるし、イヤホンガイドの話を聞き逃しても誰かが注意してくれる。また、自由時間の過ごし方も、まとまった方が見知らぬ土地を動き回るには心強い。

食事も毎日一緒のテーブルだ。会話の内容は、現地の観光の感想などを除けば、よもやま話が中心で、国内で会って話するのと変わらない。

昔、入社の頃は、地方勤務で全員が同じ社宅に入っていて、休日には家族同士で夕食を食べに行き来るほど、親しく付き合っていた。その頃の思い出話などとりとめのないことを、昼はビールを、夜はビールとワインを飲みながらしゃべっている。

旅程の最終日までこのような毎日が続けていると、近頃は年のせいか、さすがに最後の方はバテ気味になってくる。毎年、海外へ行く理由の一つは、日本の日常から離れた場で、会話やお酒を楽しむことができる元気を確かめるためかもしれない。

旅先ではいろいろなことがある。スイスでモンブランからロープウエーでイタリアへ渡ってリゾー



トホテルへ泊まったとき、5 人乗りのエレベーターに 6 人全員とそれぞれの荷

物が乗って荷重オーバーになり、階と階の間で止まって動かなくなり、閉じ込められた。どうなることかと肝を冷やしたが、何とか外部と連絡が取れてエレベーターを動かしてもらった。

モロッコのサハラ砂漠を歩いたときは、世界は砂



の黄色と空の青さ、それに静寂が支配していたが、突然、天候が変わり、激しい風が吹き出し砂

嵐になった。自分の足跡さえすぐに流砂で消えてしまい、どこを歩いているか皆目分からない、砂が顔に当たって痛くなり、同行していたラクダも見えなくなるような状況だったが、現地ガイドが我々の前後に付いていて、キャンプにたどり着けた。

今年の海外旅行は、新型コロナウイルスの影響で行けなくなった。不要不急の海外渡航は、2~3 年はむづかしいかもしれない。メンバーの過半数が後期高齢者で、長時間のフライトなど健康面の不安もあるが、いつかまた全員で再び海外旅行ができる日の来ることを願っている。

「ジャガイモ」と「馬鈴薯」

4 班 藤原 雄平

もうだいぶ前、コロナ非常事態宣言が検討されていた頃、朝日新聞の片隅に「ポテチの原材料表記」の題で某記者の小編が掲載されていた。大好物のポテトチップスを2袋食した後、袋に表記されている原材料名を見ると、一つはじゃがいも、一つは馬鈴薯とあり、何故？と記者は疑問が湧いた。記者魂で調べると、シェア7割を占めるカルビーは当初は馬鈴薯だったが20年ほど前に一般的なじゃがいもに表記替えしたとのこと。一方、日本で初めて量産化に成功した老舗の湖池屋では一貫して馬鈴薯で通しており、老舗の誇りが表現されているともいえる。記者は農林水産省にも問い合わせている。返事は、白書を含めて省内では馬鈴薯を使用、但し法律などでの定めはなく、いわゆる役所の慣例とのこと。さらに記者は勉強する。日本へはジャカルタから渡ってきて「ジャガタライモ」、それが転じて「じゃがいも」と呼ばれた。一方、江戸時代の本草学者、小野蘭山は芋が馬に付ける鈴のように成っていることから馬鈴薯と自著で紹介した。ここから同じものが2通りの名前と呼ばれることになった。

以上が、ポテトチップス好き新聞記者が疑問に対し調査した結果の要約ですが、この文を読んだ時、以前に見た牧野富太郎博士の書物が頭をよぎりました。確か、牧野博士はジャガイモと馬鈴薯は別のものである、混同するなと怒っておられたと。詳細については覚えていませんでしたので、改めて目を通しました。書物の名は「植物一日一題」、博士の植物全般にわたる様々な蘊蓄がこれでもかと言わんばかりに盛り込まれている本で、その1題目のタイトルが「馬鈴薯とジャガイモ」なのです。そこには先ず、「大抵の人、否な一流の学者でさえも馬鈴薯をジャガイモだと思っているのが普通である」とあり、これに対し「ジャガイモは断じて馬鈴薯そのものでないことは最も明白かつ確乎たる事実である。こんな間違った名を日常平気で使っているのはおろかな話で、これこそ日本文化の恥辱でなくてなんであろう」と激しい言葉が続く。誤解が生じた理由は記者の記事の通り「小野蘭山がジャガタライモを馬鈴薯と言い始めて以来、今日に至るまでほとんど誰もこれを否定する者がなく・・・」とし、「馬鈴薯はジャガタライモではないぞと今日大声で疾呼し喝破したのは私であった」と胸を張っておられる。その根拠は次の通り。「元来馬鈴薯というものは

中国の福建省中の一地方に産する一植物の名で地方の書物にわずかに載っているだけでそれがどんな植物かは大方の中国人にとっても不明の代物である。一方、ジャガタライモは南米アンデス地方原産で欧州を経て東洋に、日本にも中国にも入り込んだもの。この事実から見ても元来の中国植物である馬鈴薯ではあり得ない。この外来植物に対し、中国では洋芋、あるいは荷蘭薯と称し、決して馬鈴薯と間違った名では呼んでいない。」これにより「馬鈴薯をジャガイモと呼ぶことは躊躇なく早速に廃すべく、従って馬鈴薯の名は即刻放逐すべき」となるのです。

では、元来の中国植物「馬鈴薯」とは何なのか？前出の地方誌には、「馬鈴薯八葉八樹二依テ生ズ、之ヲ掘リ取レバ形チニ小大アリテ略ボ鈴子ノ如シ、色ハ黒クシテ円ク、味ハ苦甘シ」とのみ記載されていて、葉の形状や花の様子の説明はない。牧野博士の怒りは小野蘭山に向けられる。この短文から「よくも馬鈴薯がジャガタライモだと言えたものだ」と。いよいよ馬鈴薯の正体暴きへ博士の謎解きが開始される。同じ説明文から、博士はホドイモに狙いを定めて「植物名実図考」や「救荒本草」など中国の書物を手引きに推理を進める。このプロセスは長いので結論を急ぐと、残念ながら資料不足は致し方なく、「馬鈴薯はホドイモであるようだ」との含みのある表現が結論となっています。



今日の中国ではジャガイモを馬鈴薯と表記することがあるらしいのですが、これは日本での誤用が逆に中国に伝播したそうで愉快的な話です。



馬鈴薯とジャガイモの話で思い出すことがもう一つ。昔、美術の教科書でゴッホの初期の代表作を当時は「馬鈴薯を食う人々」と教わったが今は

どうなんだろうと調べてみると、「ジャガイモを食う人々」にどうも変わっているようです。これは牧野博士の説に従ったものか、カルビーのようにジャガイモが一般的だからそうしたのか、また謎解きが必要です。

樹形ウォッチング

4班 遊上 眞一

洞 貴祿のある樹になるには、洞は必要なのでしょう



エゴノキ（箕面才が原林道）



盆梅（大和郡山）



サルスベリ（万博記念公園）



ソメイヨシノ（京都植物園）
生命力が強く、新しい枝が出てきた



トチノキ（芦生 上谷）
熊が 冬眠に使ってます



ブナ（芦生 上谷）
洞の途中から 幹折れ



スギ（芦生 赤崎尾根）
雷に撃たれ大きな洞ができた雷杉



雷杉の内部は黒く焼け焦げて、
空が見えます



台場クヌギ（能勢 初谷溪谷）
菊炭作りの伐採で、内が腐朽



カツラ（天生湿原）



日本一の巨樹、蒲生の大クス。洞の広さは 畳8畳分、高さは16.5m
洞の内はハシゴが掛かり上まで登れますが、扉で閉められています



バラ

4班 木邨 圭子



交野で見た植物（2020 年夏）

4班 渡辺 文子



ミズオトギリ 準絶滅危惧
くろんど園地（8月4日）
群生していました。100本ぐらいありそう

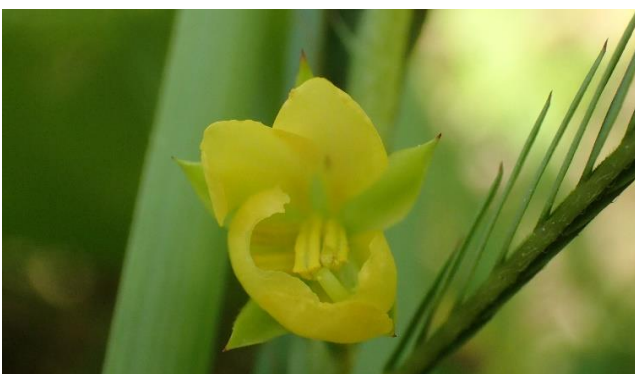


オオヒキヨモギ 準絶滅危惧
くろんど園地（8月13日）
崖の斜面にわずかに4~5本



ミクリ 絶滅危惧Ⅰ類
くろんど園地（8月13日）
オニスゲに埋もれて花の時期には見つけれなかったのですが…8月24日にはオニスゲごと伐採されていました

モウセンゴケ 準絶滅危惧
星田園地（7月21日）
午後になってしまったため、残念ながら開いた状態では見ることができませんでした。ロープで囲んで保護されています



カワラケツメイ 準絶滅危惧
くろんど園地（8月14日）
8月24日には果実をつける間もなく伐採されていました



ミズギボウシ 絶滅危惧Ⅱ類
くろんど園地（8月24日）
川沿いに結構沢山ありました

1班 池田 清

俳句

- ・ 輪の中に母おはすやう盆踊



- ・ 虫すだく小さき命の尽くるほど



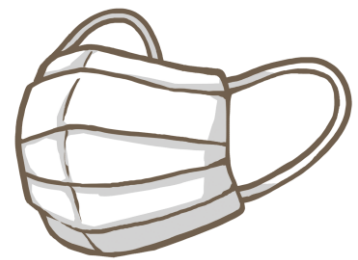
- ・ 山里に響く歓声運動会

~~~~~

1班 山上 恵子

川柳

- ・ 熱風を 浴びて酷暑の 虫の息
- ・ てんこ盛り コロナ禍・熱中・認知症
- ・ 問題は コロナ禍と言い かたをつけ



俳句



- ・ 蝉時雨 聞こえ地震の 無き安堵
- ・ 迷い入る 蝉一匹の 夜の音
- ・ 朝顔は 古りて小さく なりにけり



## 新人紹介コーナー

①：氏名 ②：所属 ③：講座生の期 組  
④：住所 ⑤：他の所属 ⑥自己紹介



①：早川 憲  
②：1 班  
③：23 期 緑組  
④：大阪市  
⑤：「大阪の歴史遺産を探訪する会」



①：藤本 純子  
②：1 班 副班長  
③：22 期 風組  
④：神戸市  
⑤：「地球環境自然学」  
「武庫ネイチャー」  
「鉱物クラブ」

⑥：物覚えが悪く高等科を 16 期と 18 期で学びましたが、未だ植物の名前等を覚えることができません。少しずつ頑張ります。

⑥：知らない事は何でも、何かと知りたい方です。山が好きです（緑の中？）が、体力が無くなって高い山には行けなくなりました。低い山、体力に合った山には行きたいです。



①：田中 朱実  
②：2 班 副班長  
③：25 期 緑組  
④：大阪市  
⑤：「大阪の歴史遺産を探訪する会」  
「鉱物クラブ」  
「風と緑」



①：小畑 孝二  
②：3 班 副班長  
③：25 期 緑組  
④：明石市  
⑤：なし

⑥：2 年前、シニア大学校に入学した後、徐々に草木の面白さ、自然の心地よさに目覚めた遅れ者ですが、今はすっかり嵌っています。よろしくお願いいたします。

⑥：夜の森の中、一人で座っていると小さな音にも敏感に反応。誰かが近づいてきそうな気配がする！これから、自然のいろいろな面白さをたっぷり楽しみたいと思っています。よろしくお願いいたします！



①：赤木 俊雄  
②：4 班 副班長  
③：25 期 緑組  
④：寝屋川市  
⑤：なし

⑥：パイナップルを育てています。山を根こそぎ伐採された腐葉土のない土にドングリの木を育てる技術を習得したい。雑木で工作をしてみたい。

コロナ禍で初めて「自然と文化だより」が欠号となる事態となりましたが、46号は発刊することが出来、ホッとしています。投稿を頂きました皆様に感謝いたします。  
(広報委員会)

